

令和8年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	60	59	54	5.9	14.4	482 (478)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	497 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

全国学力・学習状況調査

【成果と課題】

国語

【成果】

- ① 全国平均に対して0.92、市平均に対して0.98であった。
- ② 言葉の使い方に関する項目が、全国平均を大きく上回った。漢字、文法など言語の基本事項がおおむね定着していることがわかる。
- ③ 書くこと・読むことに関しては平均と変わらなかった。読解力に関して、丁寧に確実に読み取ることが概ねできているとわかる。

【課題】

★話すこと、情報に関する事項が全国平均より10ポイント近く下回っていた。

①ディスカッションやグループワークにおける意義や個々の役割を生徒に理解させる必要がある。また、自分の意見を伝えるときに、テーマに沿って正しく意見を伝えることができた、様々な意見を集約してまとめる経験をさせる必要がある。

②情報に関する事項は、メールやインターネットの使用方法など基本事項を整理させる必要がある。中3の2学期には情報に関する単元があるので、基本から見直していく必要がある。

数学

【成果】

平均が54点で、大阪府平均に比べ1点、対比率は0.98であった。大阪府全体の中では数学の学力がやや低いことがわかる。特に、「データの活用」の領域が低く、大阪府平均に比べ2.0点低い。しかし、「関数」の領域では平均に比べ2.1点高かった。

【課題】

テスト結果を振り返り、自分の課題に合わせて取り組む機会を設ける。特に、苦手とする「データの活用」の領域については、繰り返し問題演習を行い、既習事項を定着させる。また、習熟度別の学習を行い、個に応じた指導で基礎学力の向上を図る。

英語

【成果】

平均正答数は大阪・全国平均をやや下回る結果だったが、「聞くこと」についてはは全国平均に近い設問もあり、着実に英語力が向上している部分が見られた。

【課題】

「読むこと・書くこと」の平均値が大きく下回っているため、英語を苦手と感じる生徒への基礎・基本が定着するよう習熟度別授業などを通じたきめ細やかな授業をすすめ英語力の向上をすすめていく。

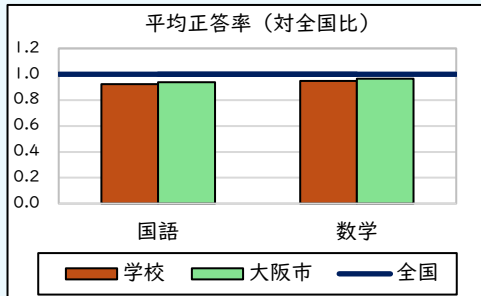
今後に向けて

単元テストを実施し、誤答の復習や振り返りプリントの活用などを通して学習内容の理解を確認し深めていく。あわせて、授業の見直しを図り基礎学力の定着を図る。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

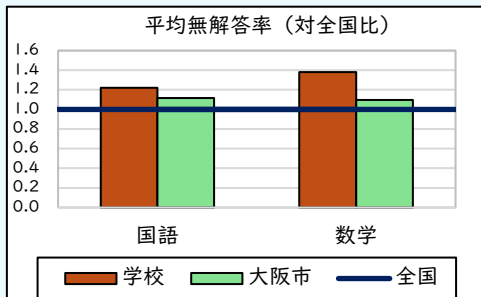
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	59	54
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



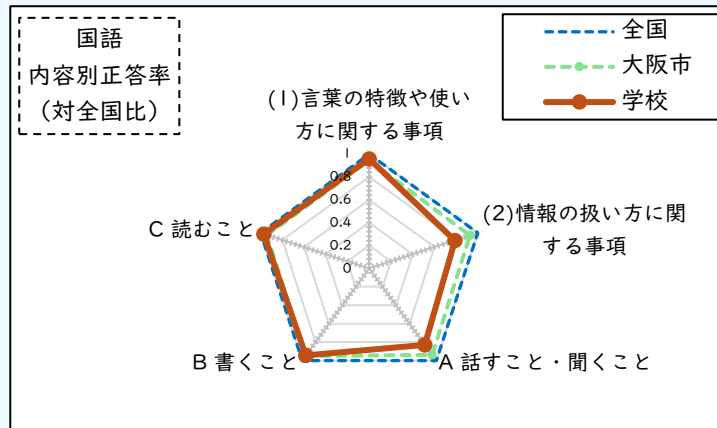
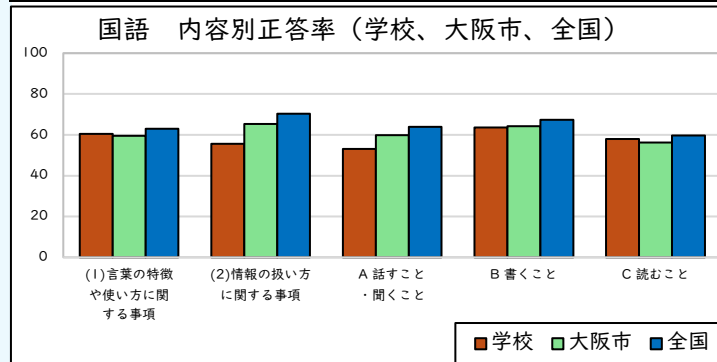
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	5.9	14.4
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



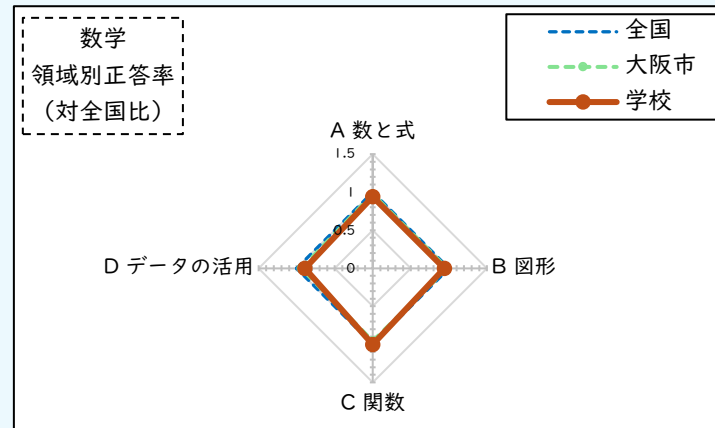
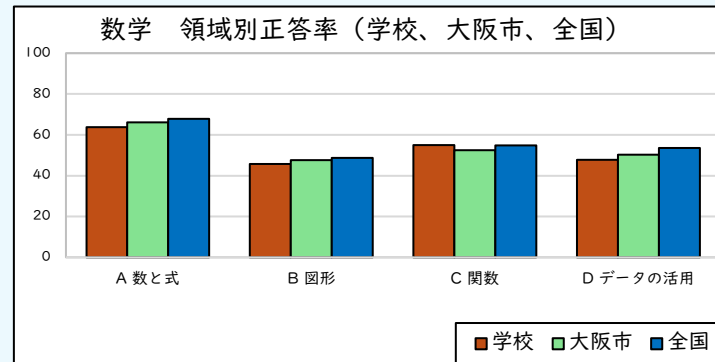
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	60.4	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	55.6	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	53.1	59.9	63.9
B 書くこと	3	63.6	64.2	67.4
C 読むこと	3	58.0	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	63.7	66.1	67.8
B 図形	4	45.8	47.6	48.7
C 関数	3	54.9	52.5	54.8
D データの活用	4	47.7	50.2	53.5



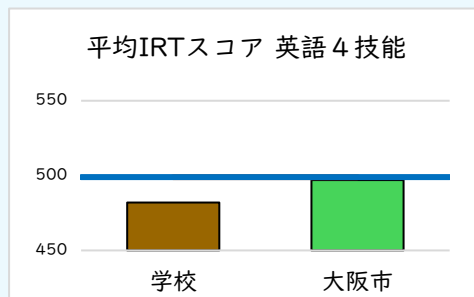
令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	482 (478)
大阪市	497 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

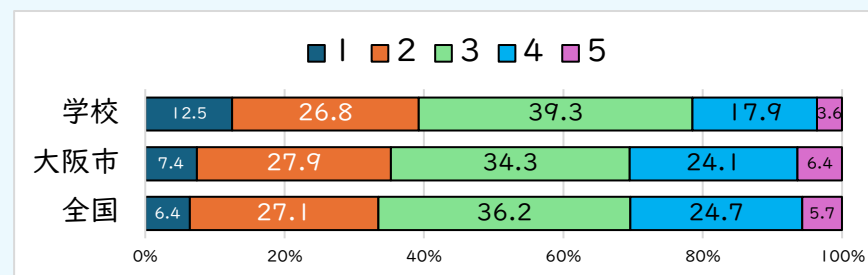
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

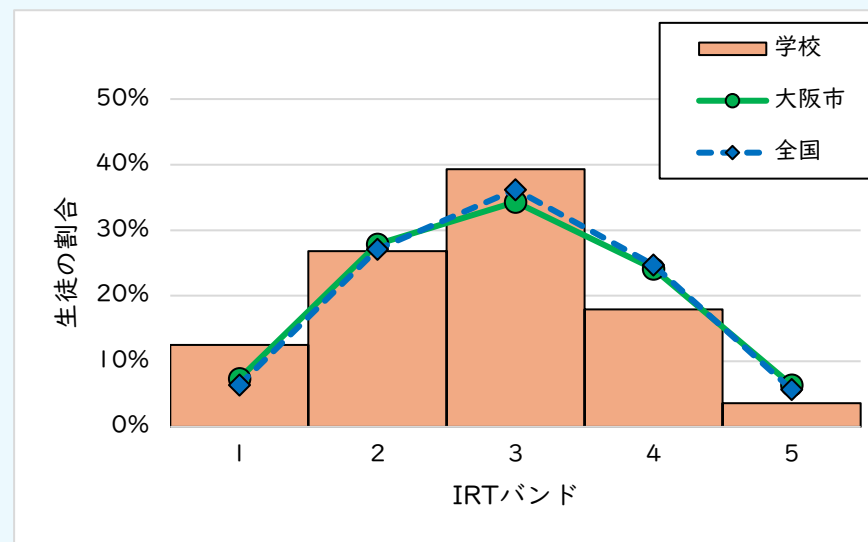
	1	2	3	4	5
学校	12.5	26.8	39.3	17.9	3.6
大阪市	7.4	27.9	34.3	24.1	6.4
全国	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



生徒質問調査より

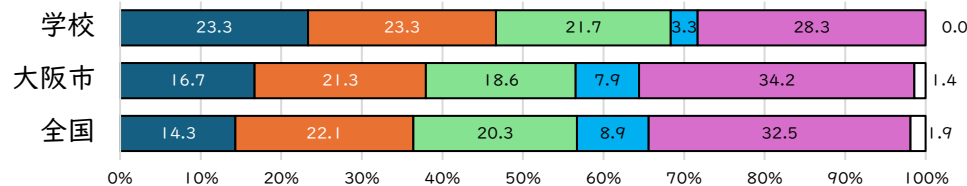
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

1 2 3 4 5 6 7 その他・無回答

質問番号 質問事項

(7)

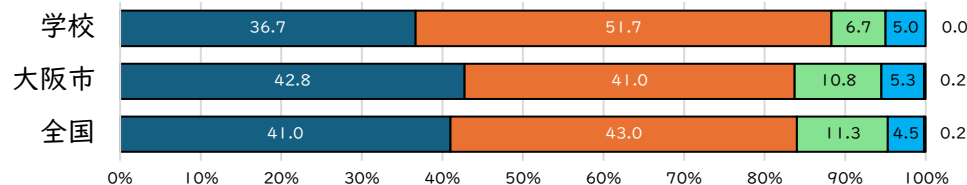
学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか



1 ほぼ毎日
2 週に1~2回
3 月に1~2回
4 年に1~2回
5 ほとんど、または、全くない

(8)

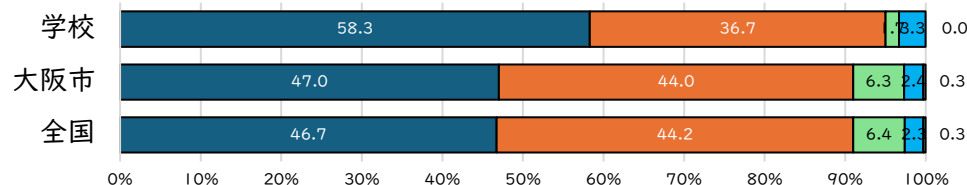
自分には、よいところがあると思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(9)

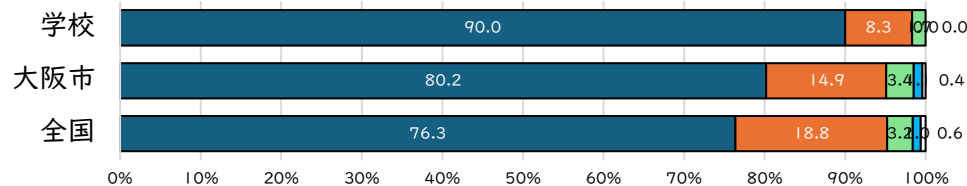
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(12)

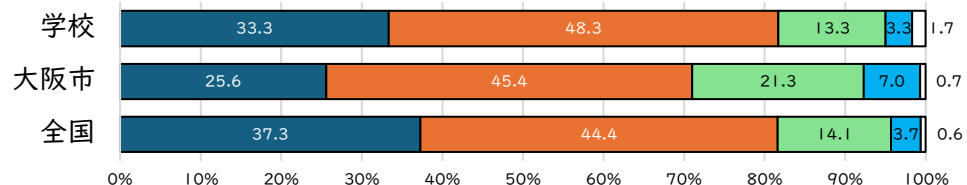
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(48)

総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりしていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

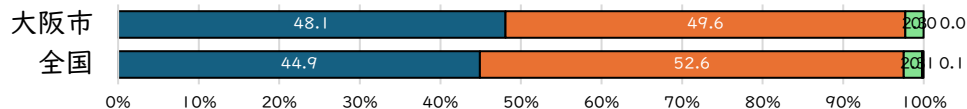
質問番号

質問事項

(10)

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか

【学校の回答】 1 よく行った

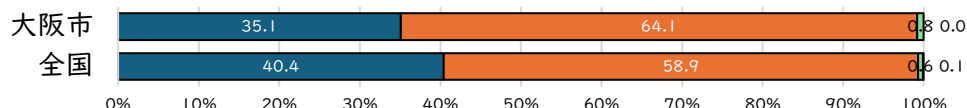


1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった

(16)

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

【学校の回答】 2 一部取り入れている

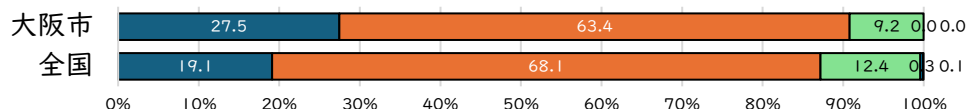


1 十分に取り入れている
2 一部取り入れている
3 全く取り入れていない

(26)

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

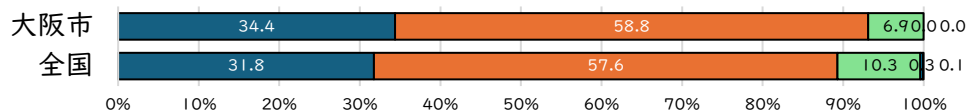


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(66)

生徒が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

【学校の回答】 1 当てはまる

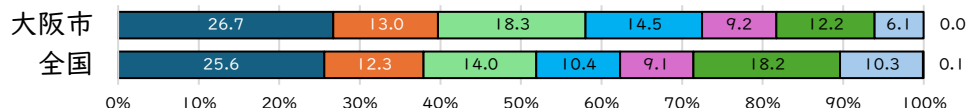


1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(78-1)

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。
(1) 不登校生徒に対する学習活動等の支援（(78-2)の授業配信を含む）

【学校の回答】 5 月1回未満



1 ほぼ毎日
2 週3回以上
3 週1回以上
4 月1回以上
5 月1回未満
6 活用していない
7 該当する生徒がいない